

謹賀

新年のご



対馬市長 比田勝 尚喜

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに令和3年の新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

日頃より市政に対しまして深いご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年3月1日の対馬市長選挙におきまして、多くの市民の皆様をはじめ各方面からの力強いご支持を賜り、2期目の市政運営を務めさせていただくこととなりました。1期目を振り返りますと、公約として掲げた返礼品付きふるさと納税制度の構築や市内産業の活性化を図るため、有人国境離島法に基づく各種施策を活用した雇用機会拡充支援事業等に取り組んできたところであります。2期目の航海へ漕ぎ出した矢先、中国武漢市で初めて確認された新型コロナウイルス感染症は、世界規模で感染が拡大し、国内においても緊急事態宣言が全国に発令され、国民経済と日常生活に多大な影響を及ぼしました。

市といたしましては、国や県の支援をいただきながら、市民の命と生活を守り、地域経済の維持のため、奔走した1年でした。

現在、ワクチン、治療薬の開発が急がれていますが、未だ収束の兆しが見えない状況にあり、本年も気が抜けない緊張の1年になることを覚悟しております。

現在「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、世界的な取り組みとなっておりますSDGsでございますが、本市では、2030年のあるべき姿として、森・里・海が連環する「サーキュラーエコノミー（循環経済）アイランド対馬」として未来像を描き、昨年7月、内閣府から「SDGs未来都市」として選定されました。今後は、現在、策定中のアクションプランを基に「対馬市SDGs未来都市」実現のため、スピード感をもって着実に実施してまいります。

また、元寇を題材にしたゲームソフト「Ghost of Tsushima（ゴースト・オブ・ツシマ）」が発売され、全世界で大ヒットとなったことで、その舞台である厳原町小茂田浜への聖地巡礼のため、多くの方に足を運んでいただいております。日本

最強の城「金田城」に続き、多くの方々の注目が対馬に集まっています。これを観光振興における大きなチャンスと捉え、交流人口、関係人口の誘導により、移住・定住につなげ、最重要施策である人口減少対策の起爆剤となるよう知恵を絞りたいと考えております。

そして、ウィズコロナ・ポストコロナ社会では、リモートワークやオンライン学習等、私たちの暮らしそのものが変わり、自然豊かな地域での暮らしが見直されつつあります。本市でも、（※1）Society 5.0時代に生きる子どもたちのため、国のGIGAスクール構想に呼応し、令和3年3月までには、全児童・生徒一人1台のタブレット端末の配備が完了する予定であります。

引き続き、市民協働・市民主体のまちづくりを進め「みんなが主役になる希望の島」「地域経済が潤い続ける島」「支え合いで自立した島」「自然と暮らしが共存する島」という4つの将来像の実現と「自立と循環の宝の島 対馬」を目指して、全身全霊をもって市政運営に邁進してまいりますので、本年も相変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆様方にとりまして、活力に溢れ、笑顔が輝く素晴らしい年になりますよう心から祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

Society 5.0(※1)

狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く新たな社会として、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会

GIGAスクール構想(※2)

児童生徒向けの一人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現させる構想

新年

あいさつ



対馬市議会議員 小川 廣康

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、ご健勝で希望に満ちた新春をご家族おそろいでお迎えのことと心からお慶び申し上げます。令和3年の年頭にあたり市議会を代表いたしまして、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

市民の皆様には、日ごろから市議会に対しまして深いご理解と温かいご支援を賜りまして、心から厚くお礼申し上げます。

さて、去年の世相を表す漢字は「密」でした。この「密」に象徴されますように、去年は、新型コロナウイルスに明け暮れた1年でありました。昨年1月に国内初の新型コロナウイルスの感染者が確認され、身近なところでは、3月に吉崎市で感染者が確認されました。4月には全国に緊急事態宣言が発令され、新しい生活様式の実践が求められました。そのような中、対馬市におきましては、7月に1例目の感染者が確認されて以降、9人の感染者が確認されました。全国的には、感染者数はいったん下火になったものの、第2波、第3波が押し寄せており、収束の兆しは見えません。市民の皆様におかれましては、マスクの着用、丁寧な手洗いの励行、三密の回避などを徹底していただき、感染予防、感染拡大防止に努めていただきますようお願いいたします。日本中、世界中を未曾有の事態が襲う中で、早く日常が戻ることを願って、皆さん一緒に頑張りましょう。

また、近年は、雨の降り方が局地化、集中化、激甚化しており、対馬市におきましても、昨年7月には「50年に一度の大雨」情報が発表されました。さらに9月には特別警報級の台風が接近し、市内各地に甚大な災害をもたらしました。被災されました市民の皆様には、心からお見舞い申し上げます。

私たち、対馬市議会は、年4回の定例会において、提案された議案について、慎重に審査を進め、市長部局と一体になって、対馬市の活性化のための議論を重ね、活動を続けているところでございます。また、常任委員会についても、各地域の実情を細かく理解すべく、自ら足を運んで所管事務

調査を精力的に実施しております。

また、国境離島活性化推進特別委員会におきましては、昨年度は特に、ジェットフォイルの更新について、市当局および関係機関と協議を重ねてまいりました。島民の足として、そして観光振興を図るため、島民の生活に深く浸透し必要不可欠な交通手段となっているジェットフォイルは建造から約30年が経過し、老朽化が懸念されており、新船の建造は避けて通れない喫緊の課題であります。有人国境離島法の施行により、離島においては追い風が吹いている今、今後は、新船建造の具体的な収支計画や島民の窮状を訴える資料などを携え、航路運賃の低廉化の問題も含め、国会議員等を通じて要望活動をしていこうと思っております。市民皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

私たちの任期も今年5月で満了を迎えますが、市議会といたしましても、山積する課題に立ち向かいながら、まちづくりの主役は市民の皆様であることを第一に考え、対馬市の将来像であります「自立と循環の宝の島 対馬」の実現と市民福祉の向上のため議員一同、市民皆様の信頼と負託に応えられるよう、全身全霊で取り組んでまいり所存であります。そして、あらゆる世代が夢や希望を持ち、ともに成長でき、穏やかに暮らせる安全・安心のまちづくりを市民の皆様と一体になって進めてまいりたいと決意しているところでございます。これからも最後まで、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

地方創生が求められる今日、地方自治の自主・自立が一層重要となってまいります。地域活性化に向け、議会と行政が切磋琢磨して、地域に応じたまちづくりを進めていくことが求められており、地域の熱意と力量が問われているところであります。

結びに、本年が市民の皆様にとりまして、幸多き素晴らしい1年でありますよう心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。